

含嗽薬

製品群No. 27

資料4-21

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)				
評価の視点			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの					使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
殺菌消毒成分	塩化セチルピリジ	スプロールトローチ うがい薬がなく、トローチの添付文書を用いた	口中で頻りに遭遇する病原細菌である溶血性連鎖球菌や黄色ブドウ球菌またカンジダ等の真菌に対する強力な殺菌作用を示す				0.1%未満(口腔、咽頭の刺激感)	5%以上又は頻度不明(過敏症)									通常成人1回1錠を1日3~4回がまず口中で徐々に溶解して使用する。なお、症状により適宜増減する。	咽頭炎、扁桃炎、口内炎
	塩化デカリニウム	SPTローチ明治 うがい薬がなく、トローチの添付文書を用いた	塩化デカリニウムは、グラム陽性菌、真菌などに抗菌作用を示す					5%以上又は頻度不明(過敏症)									塩化デカリニウムとして、通常1回0.25mg(本剤1錠)を1日6回投与し、口中で徐々に溶解させる。なお、症状により適宜増減する。	咽頭炎、扁桃炎、口内炎、抜歯を含む口腔創傷の感染予防
	塩化ベンゼトニウム	ネオステリングリーン	陽イオン界面活性剤で、芽胞のない細菌、カビ類に広く抗菌性を有し、低濃度で強い殺菌効果を示す。しかも、毒性が低く、刺激が少なく、洗浄作用をも有する。				0.1~5%(刺激感)	過敏症					含嗽用だけに使用させる。用時希釈。		口腔創傷の場合で、血餅の形成が阻害されると思われる時期には、はげしい洗口を避けさせる		①塩化ベンゼトニウムとして、0.004%(50倍希釈)溶液として洗口する。 ②塩化ベンゼトニウムとして、0.01~0.02%(10~20倍希釈)溶液として洗浄する。	①口腔内の消毒 ②抜歯創の感染予防
	チモール	チモール「ホエイ」 うがい薬としてはなし 後発品なし																保存剤として調剤に用いる。
	ホピドンヨード	イツジנגーグル	抗殺菌作用、抗ウイルス作用を有する			ショック、アナフィラキシー様症状(0.1%未満)	0.1~5%未満(口腔、咽頭の刺激感、悪心) 0.1%未満(口腔粘膜びらん、口中のあれ、不快感)	0.1%未満(過敏症)		本剤又はヨウ素素に対し過敏症の既往歴	甲状腺機能に異常				口腔創傷の場合で、血餅の形成が阻害されると思われる時期には、はげしい洗口を避けさせる		用時15~30倍(本剤2~4mLを約60mLの水)に希釈し、1日数回含嗽する。	咽頭炎、扁桃炎、口内炎、抜歯創を含む口腔創傷の感染予防、口腔内の消毒

含嗽薬

製品群No. 27

資料4-21

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果	
	評価の視点	薬理作用		相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)					スイッチ化等に伴う使用環境の変化
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの							使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
抗炎症成分	グリチルシチン酸	テルマクリン軟膏	ステロイド様抗炎症作用(浮腫抑制、肉芽腫抑制、抗紅斑)					5%以上あるいは頻度不明(過敏症)											通常、症状により適量を1日数回患部に塗布または塗擦する。	湿疹、皮膚そう痒症、神経皮膚炎
清涼化成分	メントール	「メントール」「ミヤザワ」 うがい薬なし後発品なし	矯味矯臭剤																	芳香・矯臭・矯味の目的で調剤に用いる。

内用痔疾用薬

製品群No. 29

資料4-22

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ		D 蓋用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	I スイッチ 化等に伴う使 用環境の変 化	用法用量	効能効果			
			C' 重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	C'' 重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ									慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要 する(適応を 誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	作用機序は 説明されてい ない点も多 く、用量・効 果の関係も 必ずしも明ら かにされてい ないので、漫 然と投与しな い。	用法用量	効能効果		
		併用禁忌(他 剤との併用に より重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの			使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被 害のおそれ			
消炎 酵素 成分	塩化リゾチ ム	レプトーゼ錠	抗炎症作用 ・痲痺形成・組 織修復作用・ 膿液の分解と 排出作用・ 出血抑制作用				ショック、アナ フィラキシー 様症状、Sj症 候群・Lyell 症候群(頻度 不明)	0.1~5%未 満(下痢、胃 部不快感、悪 心・嘔吐、食 欲不振)、 0.1%未満(口 内炎等)、頻 度不明(肝機 能障害 (AST(GOT)、 ALT(GPT)、 Al-P、γ- GTP、LDHの 上昇等、めま い)	0.1%未満(過 敏症)					1.慢性副鼻腔 炎の腫脹の緩 解、痰の切れが 悪く、喀出回 数の多い気管 支炎、気管支 喘息、気管支 拡張症の喀痰 喀出困難、小 手術時の術中 術後出血の場 合、通常、成人 は1日塩化リ ゾチムとして、 60~270mg(力 価)を3回に分 けて経口投与 する。2.歯槽膿 瘍(炎症型)腫 脹の緩解(歯 科、泌尿器科 領域)の場合 通常、成人は 1日塩化リゾチ ムとして、180 ~270mg(力価) を3回に分けて 経口投与する。 高齢者減量	1.慢性副鼻腔 炎の腫脹の緩 解、痰の切れ が悪く、喀出 回数が多い気 管支炎、気管 支喘息、気管 支拡張症の喀 痰喀出困難、 小手術時の術 中術後出血の 場合、通常、 成人は1日塩 化リゾチムと して、180~ 270mg(力価) を3回に分けて 経口投与する。 高齢者減量
	プロメライ ン	キモタブS4 方単位	抗炎症作用、 喀痰・膿汁等 の粘稠性分泌 物の融解と排 出促進を有す る	抗凝血剤(抗凝 血作用が増強)			0.1~5%未 満(下痢、胃 部不快感、悪 心・嘔吐、鼻 出血、血痰等 の出血傾向)、 0.1%未満(食 欲不振、便秘 等)	0.1~5%未 満(過敏症)					本剤の作用 機序はなお 説明されて いない点も 多く、また、 用量・効果 の関係も必 ずしも明ら かにされて いない。し たがって、 漫然と投与 すべきでない。	通常、成人1日 8万~16万 プロメライ ン単位(本剤 2~4錠)を2~ 4回に分けて 経口投与す る。本剤の体 内での作用機 序はなお説明 されない点も 多く、また用 量・効果の関 係も必ずしも 明らかにされ ていない。従 って、漫然と 投与すべきで ない。	手術後及び外 傷後の腫脹の 緩解、痰の切 れが悪く、喀 出回数が多い 下記疾患の 慢性気管支 炎、気管支 喘息
止血 成分	カルバゾク ロム	アドナ(AC- 17)錠(10mg) /アドナ (AC-17)錠 30mg/アド ナ(AC-17) 散10%	細血管に作 用して、血管 透過性亢進 を抑制し、血 管抵抗値を 増強する。血 液凝固・線溶 系に影響を 与えることなく 出血時間を短 縮し、止血作 用を示す。血 管透過性抑 制作用、細 血管抵抗値 増強作用、 出血時間短 縮作用、血 小板・血液凝 固系に対する 作用、呼吸 系・循環系に 対する作用を 有する。				0.1~5%未 満(食欲不振、 胃部不快感) 0.1%未満(悪 心、嘔吐)	頻度不明(過 敏症)					カルバゾク ロムスルホン ナトリウムと して、通常成 人1日30~90 mgを3回に分 けて経口投与 する。なお、 年齢、症状に よって適宜増 減する。高 齢者では減量。	毛細血管抵抗 性の減弱及び 透過性の亢進 による出血傾 向(例えば紫 斑病等) 毛細血管抵抗 性の減弱によ る皮膚あるいは 粘膜及び内 臓からの出血 、眼底出血・ 腎出血・子宮 出血 毛細血管抵抗 性の減弱によ る手術中・術 後の異常出血	

内用痔疾用薬

製品群No. 29

資料4-22

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
		併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上 限があるもの	適量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
血行改善成分	酢酸トコフェロール ビタミンE ベラ錠	微小循環系の賦活作用を有し、末梢血行を促す。末梢安定化作用を有し、血管壁の透過性や血管抵抗性を改善する。抗酸化作用を有し、過酸化脂質の生成を抑制する。内分泌系の賦活作用を有し、内分泌の失調を是正する。				0.1~5%未満(便秘、胃部不快感)、0.1%未満(下痢)	0.1%未満(過敏症)								末梢循環障害や過酸化脂質の増加防止の効能に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきではない。		錠剤 通常、成人には1回1~2錠(酢酸トコフェロールとして、50~100mg)を、1日2~3回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。	1. ビタミンE欠乏症の予防及び治療 2. 末梢循環障害(間歇性跛行症、動脈硬化症、静脈血栓症、血栓性静脈炎、糖尿病性網膜症、凍瘡、四肢冷感症) 3. 過酸化脂質の増加防止